

アジアと日本 働く女性のミーティングスポット

CAW ネットニュース



CAW ネット・ジャパン 発行責任者 広木 道子

〒359-1151 所沢市若狭 3-2555-15 Tel & Fax: 042-949-5231

郵便振替: 00100-9-186394 Email: cawnet@japan.email.ne.jp

NO. 18

扉の内側で孤立する家事労働者

アジア地域ネット一周年

“ボクのおばさんは、ときには母さんのようでもあり、友達でもあったんだ。ボクが10歳の頃、怪我をして痛くて眠れないとき、ナナ（ボクのおばさん）は一晩中ボクのそばにいてやさしく歌を歌ってくれた。そのナナはもういない。去年、ボクの両親が金の装飾品を失くしたときナナを警察に突き出したから。あとで自分たちの置忘れだったことがわかったのに。でもナナはもういない。”

これはインドのムンバイに住む13歳の少年の言葉。彼はナナをととても恋しがっています。

ナナは単なる“使用人”。彼女は少年をととても大事にしている、何年もの間、家族に信用されて働いてきたのに、彼女に罪はないのに警察でひどい目にあいました。普通なら無罪を主張できるのに、そんなこと考えることさえできませんでした。

*

これは極端な例かもしれません。しかし、今や世界中で多くの女性たちが、メイドや使用人や家事ヘルパーなどさまざまな名称で家事労働者として働いています。何世紀もの間、女性は家事労働に従事してきました。封建制度や植民地支配の下で、また最近では国境を越えた移住労働者として。共通しているのは、彼女たちは家事の負担を引き受ける労働者であるということです。それは、伝統的に女性の役割と考えられてきました。

グローバル・マーケットの不公平な競争の中で起きている農村の貧困化、国内外の移住労働の増加、都市における貧困層の増大、女性の労働市場への急激な参入。こうしたことはすべて、家事労働者が増えている要因となっています。

家事労働は女性の仕事であるという家父長的な思い込みのため、女性たちの労働条件はよくなっていません。他のインフォーマル・セクターの仕事に比べて、家事労働者はもっとも酷使されやすいのです。なぜなら、彼女たちの仕事の場所と生活空間が同じであることが多いからです。また、ドアの内側の仕事であるため他の人々と連絡さえ取れないことが多く、労働や人権などについての情報を受け取ることもできません。



CAW（アジア女性労働者委員会）は、家内労働者（在宅労働者）のためのネットワークがアジアをはじめ世界中に広がりつつあるのに対して、家事労働者がまだまだ孤立していることに注目し、家事労働者のためのネットワークづくりにイニシアティブを発揮しました。2004年10月、香港で家事労働者の交流会を開催し、その成果として、インドネシア、フィリピン、香港から5つのグループが参加してアジア家事労働者ネットワーク（ADWN = Asian Domestic Workers Network）が作られました。ADWN はまず、法律の制定、キャンペーンやロビー活動についての情報交換の必要性を確認。2005年10月にはフィリピンへのスタディ・ツアーを行い、ADWN 設立1周年の会合を開き、組織やリーダーシップや活動について決めました。（CAW 発行 Asian Women Workers Newsletter, 2006年1月号から）

若い出稼ぎ女性とともに 中国女性労働者ネットワーク

おもちゃ工場火災で多くの犠牲者

「1993年11月19日のことでした。中国の深圳市にある工場が火事で炎に呑み込まれました。これは香港の会社で、欧米の有名なおもちゃブランドと下請け契約を結んで経営している工場でした。80人を超える労働者が焼死体で発見されましたが、そのほとんどは女性で、男性は2人でした。その他に50人がひどい火傷を負い、20人が負傷しました。この惨劇は、中国の社会だけでなく、国際社会にも大きなショックを与えました。」

中国南部のジリおもちゃ工場で起こったこの火災が、1996年に香港で、数人の中国人活動家と研究者たちによって「中国女性労働者ネットワーク(CWWN)」が立ち上げられたきっかけとなりました。

CWWNの目的は、中国の出稼ぎ女性労働者の生活の向上をはかることです。この目的を達成するために、中国女性の間でジェンダー意識を高め、女性労働者のエンパワーメントにより、集団として効果的に自分たちの権利のためにたたかい、社会的にも経済的にもより自立できるようにしようとしています。

急増する農村からの出稼ぎ女性

現代中国では、教育の機会が（とくに女性には）限られており、農業で生計を立てることが非常に難しく（これは農産物の低価格、農耕地不足、重い農地税が原因です）、また村では就職の見込みがありません。これらが圧力となって、10代後半の少女たちが生まれ故郷の村から流出しています。そうした少女たちの中には、お見合い結婚がいやで、逃げるために村を出たいという者もいます。また、もっと広い世界を目指したい、都会で現代的な生活をしてみたいという理由で出て行く者もいます。急速に発展している中国では、何百万人もの国内出稼ぎ労働者が、沿岸地域にある経済特区の外資系企業で働いています。広東省の珠江デルタ地帯の労働集約的製造業

では、労働者の男女比率はおよそ1対4とされています。ほとんどの雇用主は田舎の若い女子を採用しますが、それはそうした女の子は従順で、よく働き、コントロールしやすいと考えられているからです。

現在の政治状況では、こうした出稼ぎ労働者に援助の手を差し伸べている個人あるいは非営利団体はほとんどありません。CWWNは会員制の非営利団体で、選挙で選ばれた執行委員会が活動の戦略と方針作りに当たっています。この執行委員6名は、2005～2006年度の場合、香港出身の大学教授および大学院生から成り、ボランティアとして活動に参加しています。現在CWWNのスタッフとしては、3名のコーディネーター（香港出身）と、出稼ぎ労働経験者で中国本土出身の組織担当者9名がいます。この12名はみんな専従職員です。毎年深圳市および広東省珠江デルタ地帯で、何十万人もの労働者を支援しています。こうした労働者のほとんどが出稼ぎ初体験者で、そのため辞めていく率も高く、女子の出稼ぎ労働者の場合、工場で2～3年働いただけで帰郷してしまいます。

CWWNの活動には労働者自身も積極的にかかわっていて、とくに法律に関する教育やジェンダー意識の向上についてのグループ活動や文化活動には積極的です。たとえば、彼女たちは法的知識のトレーニングで学んだことを、寮に帰って他の労働者に話します。また、労働災害補償の計算方法をどう改めるべきかのアンケート作りに協力した者もいます。あるグループは、ジェンダーと仕事について劇の脚本を書きました。そして国際女性デーや他の催しがあった際にCWWNの文化センターでその劇を上演しました。またあるグループは、CWWNが発行している労働者向けの無料隔月雑誌「スイート・ワード・アマンダ・シスターズ」の持ち回り編集委員会に参加しています。

女性労働者に対するCWWNのサポート

CWWNの支援活動では、どんな問題でも取り上げています。健康・安全問題から帰郷を望む女性に対してはその労働者により適した生計手段を見つけることまでやります。

* 文化的スペースの提供

“家庭的雰囲気”の働く女性の文化センターは、広東省の深圳空港近くにあり、進歩的な保健省の役人や学者・弁護士・開業医、それに一般市民の支援を受けて運営されています。文化センターは女性労働者に対し、工場や寮から離れられる別のスペースを提供しています。ここで女性たちは、読書、歌、踊り、書き物、映画鑑賞をしたり、工芸や写真を始めたりしています。また、労働者や女性の権利、健康と安全について議論したり、田舎に帰ったときにうまく適応できるよう準備をしたり、あるいはリーダーとなるための研修をしたりするのです。簡単に言えば、女性出稼ぎ労働者たちはここに集い、お互いから学びあっているのです。文化センターは1週間休みなく開かれています。

* 寮を拠点とした支援ネットワーク

CWWNはこの他にも10の衣料工場の寮で、女性労働者との話し合い活動をしています。話し合いは、仕事が終わった後の10時とか11時という遅い時間に行われ、1グループ8人から10人の女性から成るいくつかのグループがあります。話題は、労働者や女性の権利、健康と安全、田舎の生活に戻ることなどですが、話題の内容については、事前に参加者の同意を得ておきます。これら支援ネットワークへのボランティア参加を望む者には研修が行われます。ネットワークのコーディネーターは、ボランティアとはいえその責任は重く、たとえば、討論会の司会とか、自助のためのネットワーク作りなどを行っています。そうしたボランティアの中でも寮のコーディネーターとしてとくにすぐれた2人の女性がいました。今ではCWWNの有給専従スタッフとして働いていますが、2人とも工場労働者として3~4年働いた経験があります。

* バスを使った巡回支援班

CWWNはバスを巡回支援用に改造し、これを使って深圳や珠江デルタ地帯の経済特区で働くさらに多くの何千人もの女性労働者と接触しようと試みています。CWWNの支援チームは健康や福祉に関する無料の資料を提

供しています。たとえば本、雑誌、リーフレットなどですが、バスにはテレビ、ビデオ、放送機器も積んでいます。また、健康診断のための簡単な機材も搭載しています。この巡回支援班の活動の調整役は、出稼ぎ労働者自身がほとんどやっています。1週間に工業都市を3つ訪問するペースでやっており、職場の健康・安全、その他保健関係の行政の担当者の援助を受けています。



* 職場の健康・安全センター

同センターは、職場の健康・安全プロジェクトのために募った資金で、2002年にCWWNの文化センターのすぐ隣に設立され、健康・安全問題に関するホット・ラインサービスを提供しています。本来は意識向上と予防に焦点を当てた活動が目的で、支援グループを組織するための教材セットと資料を提供しています。支援グループというのは参加者が医療保険を受ける法的権利について学んだり、職場の危険な機械類や有害となる可能性のあるものについて意識を高めたりできるように計らい、また各作業場レベルで基礎的安全条件がどの程度整っているかを評価する手助けをします。労災や職業病は、小さな作業場だけではなく大企業でも珍しくなく、こうしたところでは職場での危険の可能性についてほとんど教育がされていません。このセンターは、深圳市とその近くの大学の学識経験者からガイダンスを受けて活動しています。長期的には、労働者が相互に教育しあうことを目的にしています。

* 社会的なイベントを通して

以上に紹介したことやその他CWWNのさ

さまざまな活動は、たとえば中国の元日、国際労働者デー（メーデー）、国際女性デーといった、より規模の大きな社会的イベントを通して強化されます。通常のグループ活動（CWWN の各センターや労働者の寮、さらには病院の病棟でも行われる）では、人数はたいてい 15 人かそれ以下に限られています。お祭りのイベント、たとえば戸外での活動あるいは討論会といった形のイベントには、いろいろな工場から 100 人以上の労働者を集めることができます。そこで新しい友だちができ、より強い団結が生まれるのです。

*労働者委員会での意見表明

2004 年以來 CWWN は、「労働者委員会」を広めるために、労働者向け研修を行ってきました。テーマは労働者の権利、企業の社会的責任、健康・安全、団体交渉、コミュニケーション技術などです。研修目的は、労働者の自信を高めること、(残業、諸手当などについての)交渉や企業の行動規範実施状況の監視活動への労働者の参加を強化すること、工場経営者とよりうまくコミュニケーションを取れるようにすることです。

まず、CWWN は労働者向け研修を実施することに対して工場経営者の同意を得、「労働者委員会」とは仕事に関して労働者が自分の意見を表明するための場であるという考えを広めることから始めます。次に CWWN は労働者に対し、指名や選挙について教えます。どの労働者にも投票権が与えられます。労働者委員会は通常 12~14 名の労働者で構成されており、各委員には明確な役割が与えられています。この制度について評価をしあったところ、労働者委員会の交渉力はまだまだ強化する必要があります。また労働者たちは意思決定の重要部分にはまだ参加していないとの結論が出ました。こうした困難はあるものの、労働者委員会の委員たちは、作業場では労働者に一定の団結力があるところを示しました。

*キャンペーン活動

アジア女性労働者委員会 (CAW) が始めた「生活できる賃金を！」キャンペーンの拡大に CWWN も貢献しています。2005 年のメ

ネパールから、国際連帯に感謝！

4 月 24 日、ネパール国王は七政党が示した民主化のロードマップ（行程表）に従って下院を復活させると宣言しました。勝利の第一歩を皆さんとともに喜びたいと思います。永続する平和を勝ち取るまでにはなお長い道のりがありますが、政治を人々の手に取り戻した今、平和、繁栄、尊厳あるネパールの実現に希望を持っています。世界中から絶え間なく送られた連帯と支援、激励に感謝します。

2006 年 4 月 25 日 Binda Pandey, Nepal

ーデーには、アジア 9 カ国（バングラデシュ、中国、香港、インドネシア、日本、マレーシア、パキスタン、韓国、タイ）が参加するキャンペーンを支持することに同意し、「生活できる賃金」政策を訴えました。生活できる賃金の中身は何なのかと尋ねると、出稼ぎ女性労働者は次のように答えました。毎日の基本的ニーズ（衣食住、それに化粧品類）、自分のための貯金、田舎の親兄弟への仕送り、健康管理、結婚の計画、仕事をしながら勉学の機会を得ること、臨時支出用の貯え、以上を可能にする賃金です。こうして彼女たちは 1 か月 800 元（100 米ドル）の「生活できる賃金」を集団で要求しているのです。

グローバル化の時代に必要なこと

グローバル化の時代、中国の労働問題はますます複雑化していると CWWN は報告しています。グローバル市場での寡占が進めば進むほど搾取は強まっています。学生活動家、労働・人権団体、宗教団体、進歩的知識人、消費者団体といったさまざまな活動分野の人々との協働が必要とされています。とくに社会正義や環境悪化といった相互に関連し合う課題に対応するには、それが唯一有効な方法だからです。CWWN は、下からの民主的な、地域に根ざした、労働者のための組織活動を側面から支援し、中国の出稼ぎ労働者をエンパワーすることにより、それに貢献しています。(Clean Clothes Campaign 発行「Made by Women」より。翻訳：中村洋子)

インフォーマル・セクターの女性

～仕事、家庭、社会の中での苦闘～

C. ルディ・コミュニティ大学での調査研究

I. コミュニティ大学の設立と学生の特徴

このコミュニティ大学は 1999 年にライ・メイ地区に設立されました。最近、夫の失業や事業の失敗のために、仕事をまたやり始めた女性がかかりいることに気づきました。雇用市場に再び入っていくこのような女性たちが得られる仕事はどんなものかを知るために、労働条件について何人かに面接調査をしました(注:コミュニティ大学とは、コミュニティにおける成人教育を発展させようとするもので、台湾で「新しい社会運動現象」となっている。参加者の 70%は成人女性、主婦、母親)。

ほとんどの学生が近隣の地域からやってきます。平均年齢は 30 歳から 50 歳。女性が多数を占めていて、どの学期でも平均 73%が女性です。

学生たちはいくつかの異なったグループに分類できます。第 1 のグループは専業主婦で、家族や子供のことが生活の中心になっています。次のタイプは夫が中小事業者の女性で、家族や子供の世話だけではなく夫の事業の手助けもします。第 3 のタイプは子供が成人した年配者で、自分に興味のあることをやる時間がたくさんあります。第 4 のタイプはまだ結婚していない若い女性で、すでに働いていますが、仕事以外にもっと学びたいと望んでいます。最後は離婚した女性、あるいは結婚に問題を抱えている女性で、この大学に入って問題から抜け出す方法を見つけようとしています。

II. 女性が仕事を見つける必要性

学生たちは、定期的な交流を通じて互いの中に映し出される自分の現実が見えてきます。彼女たちは家族や配偶者を頼りに生活してきましたが、現実を認識するにつれて、独立への自覚と熱望が沸き出し、夫からの経済的独立を探し始めます。

その多くは専業主婦か小事業者の妻で、家族の主たる稼ぎ手ではありません。ですから、たんに収入を求めるといふより、独自のコーヒー店とか食堂とかエコ農産物店を出すというように、自分

の興味に関係のある仕事につく傾向があります。

別のグループの女性は夫の事業が失敗したり離婚したりして、独自の収入源の必要に迫られています。たいていは元手があまりかからない雇用を探す傾向があります。何か専門的な技能、たとえば理容とか経理などの技能のある人は、以前の仕事に戻ろうとします。衣料工場や織物工場で工員として働いたことのある人は、ほとんどの工場が中国へ移転しているので、今では戻るのが大変難しくなっていることが分かります。

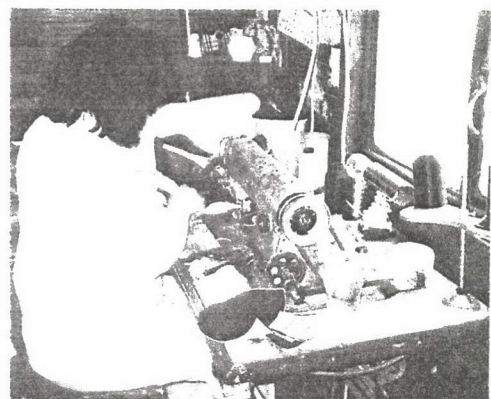
もう 1 つのグループは中年の女性で専門的な技能も教育的な資格もありません。このような女性は清掃や調理など、主婦としての技能を使うインフォーマル・セクターの仕事を探す傾向があります。家内労働者や路上物売り、市場での野菜売りや家事ヘルパーになろうとします。

III. インフォーマル・セクターの労働条件

ハイ・ピン：衣料工場の労働者

コミュニティ大学の約 20%の女性の学生が家内労働を経験しています。造花、クリスマス・ライト、衣服、おもちゃの組み立てなどをしたことがあります。台湾から中国本土へ工場の大量移転が行われてからは、このような仕事は劇的に減りました。その結果、彼女たちが期待していた給料や労働条件が低下しました。

私たちが面接したハイ・ピンは今 40 歳で、小学校卒業以来衣料工場で働いてきました。最初は有名な衣料工場で縫製の仕事を始め、豊かな経験と技能のある労働者になりました。



結婚した後、子どもの世話をするために家で仕事をすることにしました。子どもが大きくなった時、工場での仕事を求めたのですがうまくいきませんでした。多くの台湾の工場がすでに閉鎖され

ていたからです。そこで特殊な種類の衣服や下着の縫い方を学びました。それが上手になったので家で注文をとりましたが、収入は不安定でした。それで4年前に以前の使用者のところへ戻り、昼は工場で働き、夜も家で仕立て直しや特殊な衣服を縫う仕事をして働き続けています。

彼女の会社は20年以上台湾にありましたが、2000年の暮れからはほとんどの仕事が中国へ移転しました。台湾人と中国人の給料には大きな差があるからです。会社は主要な4つの部門を台湾に残しましたが、それは会社のイメージや製品の質、さらに販売に大きな影響があると考えられる生産の流れの中で重要な部門だからです。

出来高払いの縫製の仕事の95%はかなり前になくなっていきます。労働者は解雇され工場は中国へ移転しました。わずかな仕事だけが台湾に残り、技能と経験のある家内労働者に下請けに出されます。中国までの往復に時間がかかるので、緊急の場合に必要なからです。台湾の地元の労働者を安価な移住労働者に入れ替える会社もあります。

キト・ワン：中国スナックを売る路上物売り

彼女は小学校教育しか受けていません。中国スナックの作り方を習おうとこの大学に入りました。

彼女は11年以上も路上物売りとして働いてきました。子どもが小さいときには家で仕事をしていたのですが、下請けの家内労働は注文が不規則で収入も不安定でした。そこで、収入が安定して子どものお世もできる路上物売りを始めました。

毎朝6時から8時半まで屋台を開け、夫が仕事に出かける前に店じまいを手伝ってくれます。夫はインテリア装飾の小さな商売をしています。彼女は家に帰って縫製の下請け仕事をやります。これは3年続けましたが、食べ物屋台が成功して忙しくなったので下請けの仕事はやめました。

今は2か所でスナックを売っています。最初は朝早く登校する子どもたちや仕事に行く人たちのためです。それから市場に行って屋台を開きます。それには月13,000円のレンタル料を払わなければなりません。毎日1時半に仕事を終えます。

彼女はとても働き者なのに、1日10,000元以上持ち帰られることはめったにありません。経済不況に伴って利益が40%減りました。彼女は手作りスナックを作っていますので、毎日作れる数にも身体的にも限界があります。

もう1つ路上物売りに不利なことは、警察の罰金です。以前は警察官が路上物売りに罰金を課し叱りつけていました。このごろは叱りませんが罰金は今でも取ります。5日働くうち4日罰金を取られることもあります。それでも賃貸の屋台場所を借りるのに比べれば、不法な物売りをする方がまだ安上がりです。

彼女は商売が悪くなっていると嘆いています。以前は工場がたくさんあったので、客も大勢いました。その上、彼女のスナックと競合するような気の利いた食べ物の種類もあまりなかったので、11時まで働いてやっと朝食をとり、小学校3年生の子どもにまで屋台の手伝いをさせることもありました。しかし今では多くの工場が閉鎖され、1度にせいぜい3~5個しか売れなくなりました。

彼女はこの仕事が気に入っています。店舗のために高額のリENTAL料を払う必要がないからです。その上時間に融通性があるので、屋台を開く時間を自分で決めることができ、路上で食べ物を売りながら子育てもできるからです。

経済不況と大量解雇に伴って路上物売りを始める人が多くなり、競争が激しくなりました。顧客を増やすために夫婦で並んで屋台を出す人もいます。市場でも既製の食べ物や干物を売る屋台を出す失業者が増えました。

ライ・ヘン：特製料理を売る

現在46歳で中卒です。結婚前は衣料工場に働いていました。その頃、衣料産業は最盛期だったので、結婚後も工場労働者として働きました。台北から南部へ引越をしてからは、衣服を縫ったりアクセサリーを作ったりと仕事を家でやり始めました。そうすれば2人の子どものお世もできるからです。しかし収入はとても少ないものでした。

そんな時親戚の人が市場に屋台を出す気があるかと尋ねました。数日やってみると、かなり儲かることがわかりました。そこでとうもろこしを売る路上物売りになりました。家内労働者の倍の収入を得ることができ、支払いが遅れることもなく、現金をすぐ手にすることができました。仕事時間も自由になり、子どものお世ができるように、朝6時に仕事を始めて午後2時に店を閉めました。

仕事中は子どもを背負って働きました。彼女の商売は正直で、値段も妥当です。とうもろこしはおいしく、大家族の人が多いので、1度にたくさ

ん売れたものでした。しかし最近では、他に選べる食べ物がたくさんあるので、ここ4~5年、売り上げが徐々に下がってきました。売る食べ物の種類を変えるしかありません。

彼女はある店の前に屋台を置くので、借り賃を払わなければなりません。ここ数年で月2,400元から7,000元に上がりました。その上、維持と清掃のために月約40元払わなければなりません。材料費として約4,000元から5,000元必要です。もっと値段の高いハーブを買うためには、さらに1,000元から3,000元の元手が要ります。以前商売が好調だった頃は1日約1,000元の純益がありましたが、最近では500~600元しかありません。

彼女の商売が悪化している理由の1つには、工場の中国移転があると彼女は考えています。以前はその地域に工場がたくさんあり、労働者たちが買ってくれました。もう1つの理由としては、とうもろこしの小売業者が最近直接販売を始めていることです。ずっと安い値段で売っていて、彼女が買い取る値段よりも安いことさえあります。その上に、客の多くが年を取って家族のための料理に責任がなくなり、常連客もまた減っています。

彼女は売るものをとうもろこしから貝スープそばに変えようと思っています。最近家で料理をする人がだんだん減って、外食が好まれるようになってきているからです。しかしそうするには仕事の量ももっと増えるし、自分は家計補助なのだから夫より稼いで疲れ果てたくはないと思っています。

イー・ミン：清掃人として働く

イー・ミンは57歳で15年間清掃人として働いてきました。小学校卒業で、21歳のときに結婚しました。夫はエアコンの商売をしていましたが、仕事に熱心でなく、収入もよくありませんでした。

自分の家を持ちたいと思い、子どもがまだ幼稚園児のころ、衣類の襟やボタンをつける仕事を家でやり始めました。家内労働者になったのです。子どもが小学校に入ると、民間会社で働きはじめ、夜は市場で靴や下着を売りました。

彼女はエアコンや換気扇を洗うなど夫の商売も手伝いました。しかし夫は怠け者で、彼女が一人で働くという状態が10年余り続きました。

32歳になったとき、とうとう自分で清掃人になりました。長く清掃人をしてきた友人からその仕事を習い、それまでエアコンや換気扇を洗う仕事

で知り合った顧客に新しい客を紹介してもらい、うまくやれて、1年後には夫も参加しました。

ついに彼女はマイホームを買う願いがかないませんでしたが、3年間、1日も仕事を休みませんでした。そのため、新居のために買ったソファは3年間ほとんど使われませんでした！

彼女が言うには、清掃の仕事には特殊な技能も元金も要りません。必要なのは身体を使う労働だけです。速く、能率よく、清潔で、よく働く、つまり肉体労働の厳しさを選ぶ限り、いつでもお金を得ることができます。彼女は、階段掃除を半日やって1,000元の収入を得ることができました。

最近、サンチョン地域では住居用ビルで階段の清掃人を必要としているところが多くなっています。彼女は1日にいくつのビルを掃除するか計画して進められるので、階段掃除を好んでいます。

ほかに家の掃除の仕事があります。他人の家を掃除するのは、その家の住人によって期待されることがさまざまなので難しいです。顧客の要求や気分に対応する必要があるし、関連するこまごまとした仕事がたくさん出てきます。家に入るために前もって日時の約束を取らなければならないし、個人の家ではセクハラ危険性もあります。

一方、階段掃除には掃除用具をたくさん持っていく必要があります。清掃人だと分かって見下げられるのではないかと嫌がる人もいます。

イー・ミンは自分が清掃人でもあり使用者でもあります。一緒に働く人が2人いて、彼らは1日8時間働き、1人当たり月30,000元受け取ります。水槽の掃除をすれば月40,000元になります。3人いれば午前中に水槽4つを洗うことができますが、料金は1水槽につき1,000円で計4,000元になり、その場合は、他の2人に1,500元払い、自分と夫が2,500元とります。後に彼らの妻たち2人も加わり、仕事を終える時間が早くなりました。

彼女の最大の問題は住居用ビルから代金をもらうことです。代金は彼女が掃除をする各階毎に少なくとも8軒で分担するので、住居者は1軒当たり月平均150元彼女に払います。これを彼女は、それぞれの居住者から全部自分で集金しなければなりません。4~5回走り回って往復しても集金できないこともあります。個人の家で代金をもらうには危険が潜んでいます。セクハラにも遭いました。知らない人の私的な場所では、攻撃される心配がいつも伴います。(つづく)

ホームページ出来ました!

CAW ネット・ジャパンのホームページがようやく出来上がりました。

グローバル化の時代、世界中で政治・経済・社会的な状況はめまぐるしく変化しています。けれど働く女性たちの姿はなかなか見えません。厳しいだけでなく、困難を希望に変えるアジアの女性たちのパワフルな活動も伝えていきたいと思えます。アドレスは下記の通りです。

<http://www.asahi-net.or.jp/~re9m-wtnb/>

(Yahoo! Japan、Google から検索もできます。)

新刊紹介『誰でも学べる女性労働組合ガイドブック～韓国編』

(編集・発行：働く女性の教育ネットワーク)

2005年10月、働く女性の教育ネットの有志が韓国へのスタディツアーを行いました。韓国女性労働者会協議会(KWWAU)、韓国(全国)女性労働組合(KWTU)、働く女性のアカデミー(WWA)、ソウル女性ユニオン(SWTU)を訪ね、非正規雇用の女性労働者の組織化に取り組んでいる女性たちの運動について直接話を聞き、大きな刺激を受けてきました。組織化の経験(ケーススタディ)、訪問先の活動紹介、実際に使われている組織化と教育に関するマニュアルやプログラム、韓国女性労働者に関する統計資料など、内容が豊富で、すぐに役立つガイドブックです。労働組合だけでなく、グループ活動にも参考になります。定価1000円+送料390円。申込みはFaxまたはEメールで。

<目次から>

- * グループ訪問 KWWAU(本部およびクロ自活後見機関、クロ女性人力開発センター)/KWTU(ロッテホテル客室清掃分会など)/働く女性のアカデミー/ソウル女性ユニオン
- * 図で見る韓国の女性労働者
- * 韓国の女性労働者運動の歴史
- * 「女性失業者のためのアクションセンター」(CAW ネット・ジャパン翻訳グループ訳) * 「一緒につくる労働組合」組織化をすすめる人のためのガイドブック

2005年度 決算報告

(2005. 4.1~2006.3.31)

<収入の部>

会費	651,000
カンパ	550,710
資料代	2,900
ビデオ代	38,000
ポスター代	7,000
ポスター作成費(CAWより)	52,545
雑収入	1,336
前年度繰越金	218,287
合計	1,521,778

<支出の部>

事務所費	480,000
編集印刷費	133,150
翻訳費	47,760
連帯活動費	164,031
国際交流費	122,208
通信費	164,986
事務用品費	27,784
会議室使用料	20,000
資料費	12,745
備品費	180,943
交通費	23,760
次年度繰越金	144,411
合計	1,521,778

ご支援下さりありがとうございます。

皆さまのご支援により1年間活動が出来ましたことを心から感謝しお礼申し上げます。編集印刷費には、懸案だったホームページ立ち上げ費用が含まれています。なかなか更新が難しいですが、ご覧になってご意見をお寄せ下さい。連帯活動費は働く女性の教育ネットとのワークショップ活動、アジア女性労働者最低賃金キャンペーンのポスター制作、CAWネットワークグループとの会合などです。国際交流費は、ワークショップ「グローバル化に挑戦する女性労働者のイニシアティブ」(於ソウル)の共催と韓国スタディツアーに関わる費用です。備品費は酷使するパソコンを買い換えました。昨年度より活発に活動が出来ましたが、その分支出も多くなりました。今後ともよろしくお祈りします。(会計 小池恵子)